住宅用火災警報器設置後のお手入れについて

■住宅用火災警報器が汚れていたら

　住宅用火災警報器にホコリが付くと火災が感知しにくくなります。乾いた布でふき取りましょう。

■定期的に作動点検をしましょう

　住宅用火災警報器本体から下がっているひもを引く、あるいはボタンを押すなどにより、作動点検をしましょう。なお、メーカーや機種によって点検方法が異なることがありますので、取扱説明書を確認してから点検してください。

■電池交換を忘れずに

　住宅用火災警報器は、電池が切れそうになった時に、音や光で知らせてくれる機能を有しています。忘れずに、電池交換を行いましょう。

※電池寿命はメーカーや機種によって異なります。詳しくは取扱説明書を確認してください。なお、最新機種の多くは電池寿命が10年（通常の使用状態）程度です。

住宅用火災警報器の電池が切れていませんか？

　住宅用火災警報器の普及に伴い、電池切れ等による警報音を火災と間違い消防への問い合わせが多くなることが予測されます。通報する前に周囲を確認し、まず「火事」か「火事でない」かを調べましょう。火災でない場合は住宅用火災警報器の説明書を確認してください。

警報音が鳴ったときは？

■火災のとき

　火元を確認し避難してください。119番通報や可能であれば初期消火を行ってください。

■火災でないとき

　たばこの煙や調理中の湯気、煙の出る殺虫剤などを使用すると警報が鳴ることがあります。対処方法として、警報音停止ボタンを押す（ひもが付いている場合はひもを引く）か室内を換気すると警報音は止まり通常状態に戻ります。それでも警報音が止まらない場合はメーカーに問い合わせしてください。

■電池切れのとき

　短い音でピッ…ピッ…と一定の間隔でなる場合は電池切れの注意音です。（メーカーによって異なりますので必ず説明書を確認してください。）（御不明な点がありましたら、販売店に問い合わせてください。）